

基本ロシア語文法

東京大学教授 佐藤純一著

Д. Сато
ОСНОВЫ
РУССКОЙ
ГРАММАТИКИ



Издательство «СЕРЮДО»

Д.Сато Основы русской грамматики

基本ロシア語文法

東京大学教授 佐藤純一著

東京・昇龍堂出版株式会社・発行



издательство «СЕРЮДО»

(85-01)

基本ロシア語文法

1985年2月 初版発行

定価 2,300円

著者 佐藤 純 一

発行者 齋藤 峰 一

印刷所 三春 印刷

製本所 市村製本

101 東京都千代田区神田駿河台2の9

(乱丁・落丁本は
直接本社でお取
替え致します)

発行所 昇龍堂出版株式会社

電話東京(292)8211-3 振替東京0-109283番

カセットテープ

吹込者 Александр Владимирович Кайрис

テープは90分です。2500円で別売しております。お近くの書店へお申しこみください。振替または現金書留により直接本社へお申しこみいただく場合は、送料240円を加算し、合計2740円お送りください。

まえがき

この本は、初歩から中級のロシア語学習者を対象とした、基礎的な文法事項の解説書です。著者がとくに意を用いたのは、ロシア語の構造と主要文法規則を、現在の一般的なロシア語学習の実際とあまりかけ離れないかたちで、有機的なまとまりとして示すこと、および最近20年間に確立定着したロシア語の新しい規範と文法記述自体の改新の結果をできるだけ内容に反映させることの二点にあります。

従来、わが国には、レファレンス・グラマーとしての体系的・網羅的なロシア文法も、また、文法中心のロシア語の教科書ないし参考書類も、すぐれた内容のものが少なくありませんでしたが、いつしか時が移り、絶版となって手に入らないものや、内容やスタイルが古くなって現代の新しい学習者に魅力や価値を感じさせないものが目立つようになって来ました。

かつてのように、文法の知識はあるのにロシア語はひと言も話せないのが少しもふしぎとされなかったような教育に代わって、現代では、最初からことばの実際に直接ふれながら、読み・書き・聞き・話す四技能のバランスのとれた養成を理想とする訓練が主流となったのは喜ぶべきことです。しかし、あまりに実際に即した勉強ばかりではこま切れの知識の寄せ集めで、全体像がつかみにくく、いまやっていることの意義やこれから先の見とおしが行かないので焦燥を感じるという声をよく耳にします。

もしもこの本がこれまで学んだ知識の体系的な整理把握に役立ち、こうした焦燥や不安の解消に効果があるならば、著者としてまことに幸いと思います。また、文法の学習にも口頭練習を併用するとその効果が大きいことを考えて、例語・例文・変化表のほとんどすべてを、ロシア人の吹き込みで録音

ii まえがき

したテープを用意しましたので、あわせてご利用いただきたいと思います。

この本では従来の慣用に代えて、限定動詞と無限定動詞、副分詞、形容分詞などのような新しい用語をいくつか導入しましたが、それらを含めて全体について、読者各位の率直なご批判を切望するしだいです。

なお、この本の執筆にあたり、その最終段階で服部文昭氏の協力をいただき、内容や表現の一部をより適切なものに改めることができました。また、本文中の写真の多くはノーポスト通信社から提供されたものです。ここにとくに記して感謝の意を表します。

佐藤純一

も く じ

まえがき	i
урок 1 文字と発音	2
§ 1 母音字母	2
§ 2 子音字母	3
§ 3 軟子音	4
§ 4 記号字母	6
§ 5 音節とアクセント	6
1. 音節	2. アクセント
§ 6 母音の弱化	8
1. アクセントのない о	2. アクセントのない я と е
§ 7 子音の同化	9
1. 無声化	2. 有声化
§ 8 特殊なつづりと単語の発音	11
урок 2 文とイントネーション	12
§ 1 断定文のイントネーション	12
§ 2 断定文のいろいろ	13
§ 3 否定の表現	14
§ 4 疑問文のイントネーション	15
1. 疑問詞のない疑問文	2. 疑問詞のある疑問文
§ 5 да と нет	16
§ 6 人称代名詞	18
§ 7 動詞の現在変化	19
урок 3 名詞・形容詞・代名詞	22
§ 1 名詞の性	22
1. (人と動物)	2. (それ以外)
§ 2 単数と複数	24
1. (主格)	2. 単数を常用する名詞

урок 7	代名詞と形容詞の格変化	68
§ 1	人称代名詞の格変化	68
1.	1人称と2人称	2. 3人称
3.	再帰人称代名詞 себя	
§ 2	кто と что の格変化	70
§ 3	形容詞的代名詞の格変化	73
1.	1・2人称所有代名詞	2. 再帰所有代名詞 свой
3.	指示代名詞	4. 限定代名詞
§ 4	形容詞の格変化	78
1.	硬変化と軟変化	2. 混合変化(その1)
3.	混合変化(その2)	4. 所有形容詞 бóжий
урок 8	動詞の命令法, 動詞変化補遺	84
§ 1	命 令 法	84
1.	2人称命令法	2. 1人称命令法
§ 2	動詞特殊変化—第Ⅰ変化型	88
§ 3	動詞特殊変化—第Ⅱ変化型	89
1.	歯音変化	2. 唇音変化
§ 4	ся 動詞の変化と意味	92
1.	ся 動詞の変化	2. ся 動詞の意味・機能
урок 9	動詞の体—完了体と完了体	96
§ 1	体 の 意 味	96
§ 2	体 の ペ ア	98
§ 3	体 と 時 制	99
§ 4	完了体と完了体の用法	100
1.	現 在	2. 過 去
3.	未 来	4. 否定文中の体の用法
5.	命 令 法	6. 必ず完了体を用いる場合
урок 10	動詞の意味的対立とその用法	108
§ 1	知覚動詞の対立	108
§ 2	動作と状態の対立	110
§ 3	運動の動詞の対立	112

2. 合成個数詞に対応する順序数詞	
§ 6 いろいろな数量の表現	148
1. 「たくさん」と「わずか」	2. 日づけのあらわし方
3. 時刻のあらわし方	4. 年齢の表現
5. 概数の表現	
урок 13 いろいろな文型と格の用法	154
§ 1 所有の表現と否定生格	154
1. 所有の表現	2. есть を用いない場合
3. 所有・存在の否定にともなう生格	
§ 2 無人称文と与格	158
1. (無人称動詞)	2. (不定形)
3. (否定代名詞・副詞)	
§ 3 述語の造格	159
§ 4 不定人称文と普遍人称文	161
1. 不定人称文	2. 普遍人称文
§ 5 生格のいろいろな用法	162
1. 他動詞の否定にともなう生格	2. 部分生格
3. 性質生格	
урок 14 仮定法といろいろな叙想表現	166
§ 1 仮定法の形態と用法	166
1. 形態—動詞過去形+бы	2. 用法
§ 2 接続詞 чтобы による表現	168
§ 3 叙想表現 (その1)—仮定と命令	169
1. 仮定の表現に関係するもの	2. 命令の表現に関係するもの
§ 4 叙想表現 (その2)—譲歩・疑問・強調など	174
1. 譲歩の表現	2. 疑問の表現
3. 強調の表現	
урок 15 関係詞による従属複文	178
§ 1 並立複文と従属複文	178
§ 2 関係代名詞 который	179
1. (定義)	2. (先行詞と変化)

§ 5	受動相の形態	211
	1. 完了体他動詞の受動相	
	2. 不完了体他動詞の受動相	
урок 18	品詞とその文法的特性 (まとめ)	214
§ 1	名 詞	215
§ 2	形 容 詞	215
§ 3	数 詞	217
§ 4	代 名 詞	218
§ 5	動 詞	220
§ 6	副 詞	221
§ 7	前 置 詞	224
§ 8	接 続 詞	224
§ 9	助 詞	225
§ 10	間 投 詞	226
付 録		229
§ 1	第2前置格を用いる男性名詞	229
§ 2	第2生格を用いる男性名詞	230
§ 3	複数主格が -á または -á とする男性名詞	232
§ 4	複数専用名詞	233
§ 5	おもな前置詞の用法一覧	236
§ 6	前置詞 на を用いる名詞	243
§ 7	動詞規則変化一覧	248
§ 8	不規則動詞変化索引	253
文 法 補 遺		
(1)	名詞変化補遺—姓の格変化	83
(2)	形容詞変化補遺—ов, -ев, -ин の型の所有形容詞	95
(3)	時の表現補遺	164
(4)	数詞補遺—分数と小数の読み方	227



クラスノヤルスク地方。穀倉地帯での収穫

урок 1 文字と発音

§1 母音字母	§5 音節とアクセント
§2 子音字母	§6 母音の弱化
§3 軟子音	§7 子音の同化
§4 記号字母	§8 特殊なつづりと単語の発音

§1 母音字母

日本語のアイウエオのような音声は母音とよばれますが、ロシア語の母音をあらわす字母は6個あり、それぞれ次のように発音します。

- ▶ a [á] 日本語のはっきり発音した [ア] /
- ② é [é] 日本語のはっきり発音した [エ]⁴
- ③ ó [ó] 日本語の [オ] よりも唇をまるめ前につき出すようにする¹
- y [ú] [ó] よりもいっそう強く唇をまるめ前につき出して発音する (日本語の [ウ] とはかなりちがう)³
- и [i] 日本語のはっきり発音した [イ]
- ④ ъ [i] 日本語のウのあたりで [イ] というように発音する (ただし, [ウイ] のような二重母音になっ²てはいけない)

このほかに、日本語のヤヨユのような音節をあらわす字母が4個あります。これらは [ィア][ィエ][ィオ][ィウ] のように、母音の前に短い [ィ] をつけて発音します。

- ▶ я [já] 日本語のはっきり発音した [ヤ] (発音記号の [j] は短い [ィ] の音をあらわします)
- e [jé] [エ] の前に短い [ィ] をそえる
- ë [jó] [ó] の前に短い [ィ] をそえる (唇をまるめて前につき出すことを忘れないように)

- 3 ю [jú] [ú] の前に短い [ɨ] をそえる (唇を強くまるめて前につき出す)
 以上10個の字母は母音そのものをあらわすか、母音をふくむ音節をあらわすもので、母音字母とよびます。

§ 2 子音字母

たとえば па [pá] というとき、母音 [á] の前にあって、独立では音節にならない [p] のような音声を**子音**とよびます。ロシア語の子音をあらわす字母は21個あり、次のように発音します。

- ▶ п [p] バベボの子音： па—пэ—по—пу—пы
 б [b] バベボの子音： ба—бэ—бо—бу—бы
 т [t] タテトの子音： та—тэ—то—ту—ты
 д [d] ダデドの子音： да—дэ—до—ду—ды
 к [k] カケコの子音： ка—кэ—ко—ку*
 г [g] ガゲゴの子音： га—гэ—го—гу*
 ф [f] 下唇を上前歯の前に軽くそえて息を吹くようにして発音する (両唇を合わせて出す [フ] とはちがう)： фа—фэ—фо—фу—фы
 в [v] [f] の有声音 (口のかまえは [f] と同じで、声を加えるだけ)：
 ва—вэ—во—ву—вы
 с [s] サセソの子音： са—сэ—со—су—сы
 з [z] [s] の有声音 (ザゼゾの子音 [dz] とはちがう)：
 за—зэ—зо—зу—зы
 ш [ʃ] シャシュシヨよりも奥で (舌尖を後ろに引き宙に浮かせて) 発音する：
 ша—шу—шо*
 ж [ʒ] [ʃ] の有声音 (ジャジュジヨの子音 [dʒ] とはちがう)：
 жа—жу—жо*
 х [x] [k] の位置で出す摩擦音 (ハヘホの子音 [h] よりも前)：
 ха—хэ—хо—ху*
 ц [ts] ツの子音： ца—цу—цо—цы*
 ч [tʃ] チャチュチヨの子音： ча—чу—чо*

4 урок 1 文字と発音

ш [ʃʲ] シの子音を2回重ねて発音する ([シシ]に近い):

ща—щу—що*

м [m] マメモの子音: ма—мэ—мо—му—мы

н [n] ナネノの子音: на—нэ—но—ну—ны

ただし, ан, он, эн のように末尾にあるときは, ヌのように, 舌尖を上前歯の根元につけて発音する (ン [ŋ]) のように舌尖が離れてはいけない)。

л [l] 舌の前面を上前歯の裏から根元にかけてつけ, 声を加えて舌のわきから息を出しながら舌尖をはなすように発音する:

ла—лэ—ло—лу—лы

р [r] 舌尖をふるわせて硬口蓋前部に2~3回おつけるようにして発音する (いわゆる巻き舌のル): ра—рэ—ро—ру—ры

й [j] 短い [ɨ]: йа—йу—йо(=я—ю—ё); ай—ой—уй

* кы, гы, шы, жы, хы, чы, щы, шэ, жэ, цэ, чэ, щэ のようなつづりは, ふつう使いません。

§ 3 軟子音

たとえば **пя** のように, 子音字母が **я, и, ю, е, ё** (これらを軟母音字とよぶ) の前にあるときは, 原則として, [プヤ] ではなく [ピ^アア] のように, 子音自体が [ɨ] の音色をとまって(舌面の中央が前寄りに高まって)発音します。このような音色の子音をふつうの子音と区別して, とくに軟子音とよびます。発音記号では [p^ʲa] のように, ふつうの子音の右肩に [ʲ] の記号 (アポストロフイー) をつけてあらわします。日本語のピャピュピョの子音も実はこの [p^ʲ] のような軟子音です。上にあげたロシア語の子音の大多数は, それぞれ対応する軟子音をもっています。

▶ [p^ʲ], [b^ʲ] пи—пе—пя—пё—плю

би—бе—бя—бё—бю

[t^ʲ], [d^ʲ] ти—те—тя—тё—тю

ди—де—дя—дё—дю

舌尖を上前歯の根元につけて発音する（日本語の [チ], [ジ] のように舌を後ろに引いてはいけない）。

[kʰ], [gʰ]	ки—ке*
	ги—ге*
[fʰ], [vʰ]	фи—фе—фя—фё—фю
	ви—ве—вя—вё—вю
[sʰ], [zʰ]	си—се—ся—сё—сю
	зи—зе—зя—зё—зю
[xʰ]	хи—хе*
[mʰ]	ми—ме—мя—мё—мю
[nʰ]	ни—не—ня—нё—ню
[lʰ]	ли—ле—ля—лё—лю
[rʰ]	ри—ре—ря—рё—рю

* к, г, х のあとに я, ё, ю のくるつづりはふつう用いません。

ただし、次の場合は例外です。

① ш, ж, ц は軟母音字の前でも軟子音になりません。*

- ▶ ши [ʃʰí], ше [ʃʰé], шё [ʃʰó] (=шо)
 жи [ʒʰí], же [ʒʰé], жё [ʒʰó] (=жо)
 ци [tsʰí] (=цы), це [tsʰé]

② ч, щ は本来軟子音なので、軟母音字以外の母音字母の前でも、つねに軟子音として発音します。*

- ▶ ча [tʃʰá], чу [tʃʰú], чо [tʃʰó] (=чё)
 ща [ʃʰʲá], щу [ʃʰʲú], що [ʃʰʲó] (=щё)

* ш, ж, ц, ч, щ のあとに я, ю のくるつづりはふつう用いません。

§ 4 記号字母

特定の音声をあらわすのではなく、ただ発音上の記号として用いる字母が2つあります。

- ▶ Ъ トヴォールドゥイ・ズナーク (硬音記号) は子音字と軟母音字 (ただし, иを除く) の間にあって, その両者を「分離して」発音することをあらわします。

ИЗЪЯН [izján] 欠点 АДЪЮТАНТ [adjutánt] 副官
イズ・ヤーン アド・ユターント

СЪЕМ [sjóm] 取りはずし ОБЪЕКТ [objékt] 対象
ス・ヨーム アブ・イェクト

- ▶ Ъ Мьяर्फеи・ズナーク (軟音記号) は子音字のあとにそえて, その子音が軟子音であることを示します。*1

КОНЬ [kón'] 馬 СЕМЬ [s'éim'] 7
コニー セイエーミ

ПИСЬМО [p'is'mó] 手紙 ПЯТЬ [p'át'] 5
ピインモ ピヤーチ

ПЬАН [p'ján]*2 酔っている СЕМЬЯ [s'im'já]*2 家族
ピ・ヤーン セイミ・ヤー

- *1 ただし, жь, шь は軟子音でなく, ж, ш と同じ発音になります。また, ч, ш はあとに ъ がなくても, つねに軟子音として発音します。
- *2 このように ъ が軟母音字の前に書かれているときも, 軟子音と軟母音字が「分離した」発音をあらわします。

§ 5 音節とアクセント

1. 音 節

間に声の切れ目をおかずに, ひと続きに発音する最も短い単位を音節とよびます。母音は1つで1音節になります。しかし, 子音はいくつ集まっても子音だけでは音節をつくることができず, その後ろか前に母音がついてはじめて音節になるのがふつうです。ある単語が何音節からなるかは, そのつづりにふくまれた母音字の数から決められます。たとえば,

- 1 音節語 (母音字が1個): я 私 он 彼 да はい дом 建物
съём 取りはずし строй 体制
- 2 音節語 (母音字が2個): её 彼女の дуэт デュエット дома 家に
бомба 爆弾
- 3 音節語 (母音字が3個): комната 部屋 канава みぞ
барабан 太鼓

2. アクセント

1音節語は、原則としてかならずアクセントがあります。2音節以上の単語は、どれか1つの音節にアクセントがあり、しかもアクセント音節の位置は単語によって決まっています。* アクセントのある音節の母音は、強く、長めに、はっきりした音色で発音しますが、アクセントのない音節の母音は、弱く、短く、あいまいな音色で発音します。発音記号ではアクセントのある音節はその母音の上に〔´〕の記号をつけて示します。本書では、練習の便宜をはかる意味で、2音節以上の単語には、発音記号にはもちろん、ロシア語つづりにもこのアクセント記号をつけて示します。ただし、è はかならずアクセントをもつので、これをふくむつづりではこの記号は省略します。

- 1 音節語 я [já] он [ón] строй [strój]
ヤー オーン ストローイ
- 2 音節語 её [jéjó] дуэт [duét] дома [dómə]
イヨー ドゥエート ドーマ
- 3 音節語 комната [kómnatə] канава [kanáva] барабан [bərabán]
コムナタ カナヴァー バラバーン

* アクセントがちがうと意味のちがう別の単語になることがありますから、注意しなければなりません。

- 1 замОК [zámək] 城 замОК [zamók] 錠
ザーマク ザモーク

§ 6 母音の弱化

アクセントのない音節の母音は、弱く、短く、あいまいな発音になるため、アクセントのある母音の音色といちじるしく異なる場合があります。とくに次の場合に注意しましょう。

1. アクセントのない o

アクセントのない音節では、つづりの上の **o** と **a** のちがいは発音上区別がなくなり、どちらも同じ、弱いアの音になります。ただし、その位置によって次のようなちがいがあります。

a) 語頭るとき、およびアクセントの直前の音節のとき——弱いがややはっきりア [a] と発音する。

□	она́ [aná] 彼女 アナー	окно́ [aknó] 窓 アクノー
	тогда́ [tagdá] そのとき タグダー	оборо́на [abarónə] 防衛 アバローナ

b) アクセントの2つ以上前の音節のときと、アクセントの後ろの音節のとき——弱くあいまいなア [ə] と発音する。

□	молоко́ [məlakó] 牛乳 マラコー	сторо́на [stəraná] 方面, 側 スタラナー
	сло́во [slóvə] 単語 スローヴァ	коло́кол [kóləkəl] 鐘 コーラカル

2. アクセントのない я と e

я と e はアクセントのないときは、弱まって、同じ発音になりますが、位置により次のように発音します。

a) 語頭るとき、およびアクセントの前の音節のとき——イとイエの中間の [jɪ] (子音のあとでは [ɪ]) と発音する。

□	язы́к [jɪzɪk] 言語, 舌 イズィーク	япо́нский [jɪpónsk'ij] 日本の イポーンスキイ
	еда́ [jɪdá] 食物 イダー	Евро́па [jɪvrópe] ヨーロッパ イヴローパ